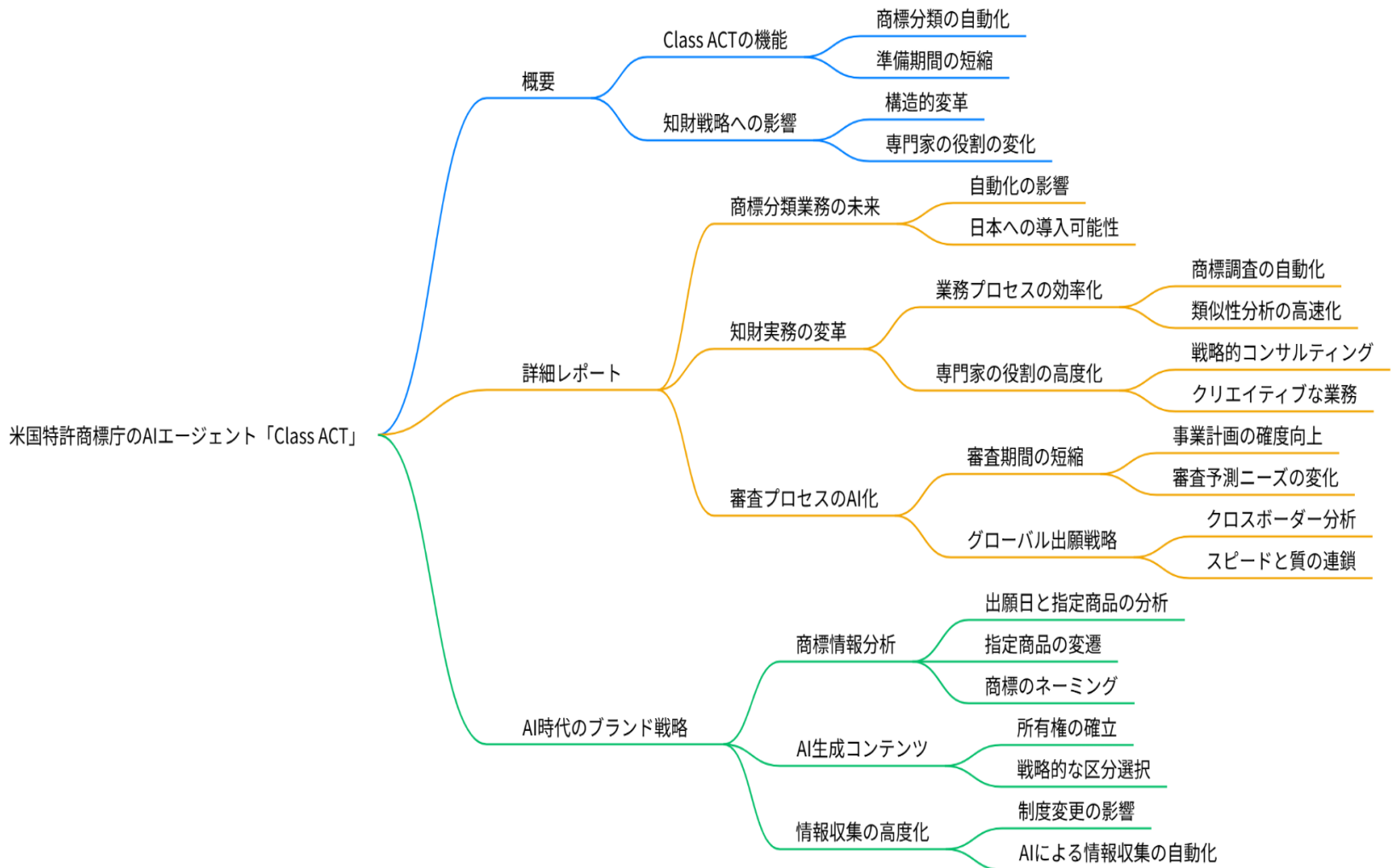


米国特許商標庁 (USPTO) AI エージェント「Class ACT」が知財戦略に与える影響

Felo AI



概要

米国特許商標庁 (USPTO) が発表した AI アシスタント「Class ACT」は、商標の国際分類を指定する業務を自動化し、

従来5ヶ月を要していた準備期間をわずか5分に短縮する画期的なツールである1。この技術革新は、単なる業務効率化に留まらず、知的財産（IP）戦略のあらゆる側面に構造的な変革をもたらす。生成AIの台頭は、商標実務における調査、ヒアリング、分析のプロセスを根本から変え、専門家の役割をより戦略的な領域へとシフトさせている24。

中長期的には、各国の特許庁における審査プロセスそのものがAIによって自動化され、審査期間が劇的に短縮されることが予測される26。これにより、出願人は迅速な権利化が可能になる一方で、従来の審査遅延を前提とした戦略の見直しを迫られる。企業にとっては、AIを活用して競合の事業戦略を分析し、自社のブランド構造を再定義するなど、よりデータドリブンで機動的な知財管理が不可欠となる10。このパラダイムシフトは、知財業務の「第三の革命」とも称され、変化への適応力が企業の競争優位性を左右する決定的な要因となりつつある5。

詳細レポート

「Class ACT」が示す商標分類業務の未来

USPTOが導入した「Class ACT」は、商標出願における指定商品・役務の分類作業を自動化するAIツールである1。このツールの最大のインパクトは、分類準備にかかる時間を5ヶ月から5分へと劇的に短縮する点にあり、これは知財業務における生産性の飛躍的な向上を象徴している1。この動きは米国に留まらず、将来的には日本においても同様のAIツールが導入され、商標法第6条で定められる一商標一出願の原則における商品・役務の指定が、より形式的な要件へと回帰する可能性を示唆している1。

この自動化は、従来のAIが担ってきたデータ分析やパターン識別の領域を大きく超えている2。生成AIは、文脈を理解し、適切な分類案や関連する商品・役務を自ら「生成」する能力を持つ2。これは、知財業務が単純な情報処理から、より高度な知的作業へと移行していることを示している。

生成AI特許調査の教科書：プロンプト設計からリスク管理まで

AI活用の原則：効果的なプロンプト7つのルール

高品質な出力を得るための7つのプロンプト設計原則

- 役割を定義する**
(例:「あなたは国際特許調査員です」)
- 構造化して入力する**
(見出しや箇条書きで情報を整理)
- 出力形式を具体的に指定する**
(例:「表形式で出力」)
- 段階的思考 (CoT) を活用する**
(思考プロセスを記述させる)
- データベース固有の横文を明示する**
(J-PlatPat用など)
- ハルシネーション対策を組み込む**
(「不明な点は不明と回答」)
- 反復的に改善する**
(対話を通じてプロンプトを調整)

'Human-in-the-Loop' APPROACH

AIは「検索の加速器」であり「代替者」ではない。
AIで戦略を設計し、人間がデータベースで実行・最終判断する。

AI特許調査の実践ワークフロー

フェーズ1:
検索前戦略の立案 (AI活用)

発明の「課題・解決手段・効果」をAIに提出させ、同種語・上位概念を含むキーワード群を抽出。関連する特許分類 (IPC/CPC) の情報を網羅的に生成します。

フェーズ2:
データベース用検索式の生成 (AI活用)

対象データベース (J-PlatPat, Google Patents等) の横文ルールをAIに指示し、手作業ではミスが起こりやすい複雑な論理検索式を自動生成させます。

フェーズ3:
検索実行 (人間が担当)

AIが生成した検索式を使い、ユーザーがJ-PlatPatなどの信頼できる特許データベースで実際に検索を実行し、文獻リストを取得します。

フェーズ4:
スクリーニングと分析 (AI補助)

適用した空欄の全文を長文対応モデルに読み込ませ、関連性をAI側でランク付けさせたり、クレーンチャート (対社案) のドラフトを自動生成させたりします。

フェーズ5:
最終判断と報告 (人間が担当)

AIの分析結果を基に、専門家が最終的な最終判断を行い、判断を決定し、報告書を作成させます。

リスク管理：絶対を守るべきルール

ハルシネーションを避けるにしない

AIが生成した特許番号、公開コード、引用文献は、100%人間が公式データベースで存在と内容を検証する必要があります。

機密情報を保護する

未公開の特許情報を入力する際は、学習に利用されない設定 (オフアウト、API利用、エンタープライズ版) が必須です。プロジェクト名などは匿名化して入力しましょう。

最終的な法的責任は人間にある

USPTOのガイダンスでも明記されている通り、AI支援を要しても、提出書類の正確性に対する責任性は重した求職者 (特許士等) が負います。

グローバル特許動向 (2024-2025)

生成AI関連特許は爆発的に増加

Year	Number of Patents
2014	735
2015	733
2016	395
2017	2,560
2018	3,500
2019	4,569
2020	8,000
2021	12,000
2022	14,000

主要プレイヤーは「中国の量、米国の質」

中国 (量)

出願件数ではTencent (中国) が世界トップですが、Google (米国) はTransformerなど基礎技術の特許を押さえ、堅実な影響力を持っています。

米国 (質)

技術トレンドは「画像・映像」が最大、「分子生成」が急成長

画像・映像生成 特許件数では画像・映像生成が最大分野ですが、成長率では創薬・材料設計に関連する分子生成分野が年平均+43%と著しく伸びています。

分子生成 (創薬・材料設計) 年平均+45%

知財実務の変革と専門家の新たな役割

生成AIの導入は、商標実務の現場に革命的な変化をもたらしている。特に、これまで専門知識と多大な労力を要した業務が、AIのサポートによって大幅に効率化されている [2](#)。

業務プロセスの効率化と自動化

- **商標調査・ヒアリングの自動化:** 従来、弁理士が時間をかけて行っていた依頼者へのヒアリング作業は、生成AIチャットボットによって自動化されつつある [2](#)。AIは人間と遜色ない自然な対話を通じて、指定商品・役務を特定するために必要な情報を効率的に引き出すことができる [2](#)。これにより、専門家は初期の情報収集作業から解放される。
- **類似性分析と分類作業の高速化:** 商標の類似性分析や指定商品・役務の分類といった定型かつ時間のかかる業務は、AIの最も得意とする領域である [2](#)。ある実務家は、AI導入により業務負担が「体感で従来の3分の1」にまで軽減されたと報告している [4](#)。三井化学では、独自開発の生成AIプラットフォームにより、特許調査時間を80%削減した実績もある [14](#)。

専門家の役割の高度化 業務の自動化は、弁理士や知財担当者といった専門家の役割を再定義する。単純作業から解放された専門家は、より付加価値の高い業務に集中することが可能になる [2](#)。

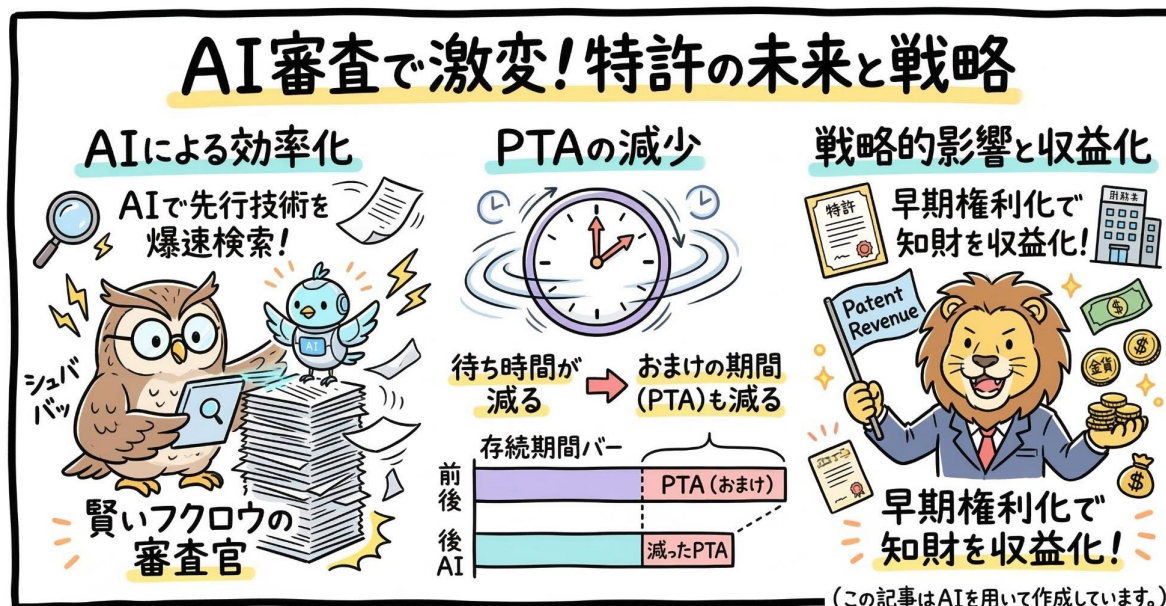
- **戦略的コンサルティング:** 企業のビジネスモデルやブランド戦略に基づいた、より高度な権利取得・活用戦略の立案。
- **クリエイティブな業務:** AIの分析結果を基にした新たなネーミングの創出や、ブランドポートフォリオの最適化。

興味深いことに、「AIのミスが新しいアイデアのヒントになることがある」という指摘もあり、AIとの協業が新たな創造性を生む可能性も示唆されている [4](#)。

ただし、AIの利用には注意も必要である。特に、クライアントから預かった未公開発明や新ブランドの情報を、学習データとして利用される可能性のある外部AIサービスに入力することは、重大な情報漏洩リスクを伴う [4](#)。弁理士法第75条（秘密を守る義務）との関係から、AIの利用は弁理士の厳格な監督下で行われるべきであるとの見解が示されている [4](#)。

審査プロセスのAI化と出願戦略への影響

AIによる変革の波は、出願実務だけでなく、特許庁の審査プロセスにも及んでいる。USPTO、欧州特許庁（EPO）、日本特許庁（JPO）などの主要官庁は、先行技術調査や分類業務にAIを導入し、審査の迅速化を図っている [6](#)。



審査期間の短縮と予測可能性の向上 中長期的には、審査プロセス自体がAIによってさらに自動化され、出願から審査結果通知までの期間が大幅に短縮されると予測されている [2](#)。極端なケースでは、出願後即日で審査結果が出される可能性も考えられる [2](#)。この迅速化は、出願人にとって以下の二つの大きな影響をもたらす。

1. **事業計画の確度向上:** 権利化の可否が早期に判明するため、新商品・サービスの市場投入計画をより高い確度で立てることが可能になる。
2. **審査予測ニーズの変化:** 審査結果がすぐに出るため、従来のように専門家に多額の費用を払って事前の審査結果を予測してもらう動機が薄れる可能性がある [2](#)。

グローバル出願戦略の再構築 各国の特許庁が同様の AI 調査ツールを導入することで、世界中でほぼ同時に同じ先行技術や先行商標が発見される環境が整いつつある [6](#)。これは、一国での拒絶理由が他国へ連鎖的に波及するリスクを高めることを意味する [6](#)。このような環境下では、出願人側も AI を駆使したプロアクティブな戦略が求められる。

- **クロスボーダー分析:** AI を用いて複数国の審査基準や判例を横断的に分析し、各法域に最適化されたクレームや指定商品を準備する [6](#)。
- **スピードと質の連鎖:** AI の力を借りて最初の国で「質の高い審査結果」を迅速に獲得し、その結果を特許審査ハイウェイ（PPH）などを活用して他国での審査に展開する「スピードと質の連鎖」を構築することが、グローバルな権利網を効率的に築く鍵となる [6](#)。

AI 時代のブランド戦略と知財管理

AI による自動化とデータ分析能力の向上は、企業のブランド戦略や知財管理のあり方にも変革を促している。商標情報は、単なる権利情報ではなく、競合の事業戦略を読み解くための貴重なインテリジェンスとなる [10](#)。

商標情報分析による事業戦略の可視化 商標出願は、企業の事業化や商品化の意思決定を反映しており、特許情報よりも事業活動との結びつきが強いという特徴がある [10](#)。AI を用いて商標情報を分析することで、以下のような戦略的インサイトを得ることができる。

分析対象	分析手法	得られるインサイト	出典
出願日と指定商品	時系列分析、キーワード抽出	競合他社の新商品・サービスのローンチ時期や内容の予測	10
指定商品・役務の変遷	区分（ニース分類）の推移分析	製造業からサービス業へのシフトなど、企業の業態変化や事業のサービス化・ソリューション化の動向把握	10
商標のネーミング	示唆的商標と独創的商標の分類・分析	競合がどの技術分野や顧客層に注力しているかの特定（例：	10

分析対象	分析手法	得られるインサイト	出典
		「AI」「IoT」などの技術キーワードを含む商標の分析)	

表11 第4次産業革命の技術ワードを含む商標の件数

商標(検索用)		2015年以降
IoT	28	27
AI	138	91
CPS	15	8
ブロックチェーン	1	1
フィンテック	1	0
シェアリング	3	2
5G	11	11
RPA	4	2

AI生成コンテンツとブランド保護 AIがロゴやサービス名称を生成する時代において、その権利の帰属と保護は新たな課題となっている [34](#)。

- **所有権の確立:** AI生成物の商標登録を検討する際には、使用するAIツールの利用規約を慎重に確認し、生成物に対する所有権が誰に帰属するのかを明確にする必要がある [3](#)。
- **戦略的な区分選択:** AI関連ビジネスを展開する企業にとって、ニース分類の **Class 9** (ソフトウェア)、**Class 35** (ビジネス管理・オンラインマーケティング)、**Class 42** (ソフトウェアの設計・開発) といった区分での商標登録は、ブランドを保護する上で極めて重要となる [3](#)。

情報収集・管理の高度化 商標区分や審査基準の改定といった制度変更は、企業の知財戦略に直接影響を与える [8](#)。従来、手作業で行われていたこれらの情報収集は、AIを活用した情報収集プラットフォームによって自動化・高度化できる [8](#)。これにより、知財担当者は情報の見落としリスクを削減し、分析と戦略立案という本来の業務に集中することが可能になる [8](#)。

1. [今後日本でも爆速処理により6条が形式的要件に戻るかも...?](#)
2. [生成AIは知財業務にどんな影響を与えるのか? ~ ...](#)
3. [生成AIにおける知的財産の正当利用のナビゲート](#)

4. [生成 AI 時代の知財調査実務 2026 記事調査レポート - GriP](#)
5. [特許調査におけるプロンプト～生成 AI 活用～ \(プロンプト付\)](#)
6. [AI による審査効率化と審査期間短縮 : PTA の減少と戦略的影響](#)
7. [知財現場の視点 - IAM](#)
8. [商標区分・類似群/審査基準の改定情報 : AI による収集手法を解説](#)
9. [グーグルの知財戦略 : 背景、現状と展望](#)
10. [商標情報を利用した知財活動および知財戦略の検討](#)
11. [【知的財産ランドスケープ】宇宙ビジネスにおける特許情報を用 ...](#)
12. [製造業が取るべき商標戦略 | ブランド価値を高め法的リスクを ...](#)
13. [技術・工業および知的財産権供与に関わる制度 | 英国 - 欧州](#)
14. [三井化学の知財戦略と分析 - サステナビリティ時代の基盤 ...](#)
15. [知的財産法における AI の影響](#)